

水草の宝庫・琵琶湖とその周辺

琵琶湖とその周辺には、様々な種類の淡水魚が棲んでいることはよく知られていますが、実は水草（沈水植物）の種類も豊富です。その数は、在来種と外来種を合わせて、少なくとも 36 種（芦屋・角野監修 2018）。淀川流域でよく見られるクロモやササバモはもちろん、琵琶湖固有のネジレモ、きれいな水を好むフラスコモ類、外来種のオオカナダモやコカナダモやカボンバ、さらには特定外来生物のパロットフェザー（オオフサモ）など、実に多様な水草が琵琶湖に生えています。

以下では、私が今夏に琵琶湖やその周辺で出会った在来水草たちを紹介します。

・ネジレモ *Vallisneria asiatica* var. *biwaensis*

ネジレモは、アジアからオーストラリアにかけて分布する、セキショウモ属のセキショウモ *V. asiatica* の琵琶湖固有変異種で、琵琶湖を代表する水草です。ネジレモは多年生の沈水植物で、その名の通り葉がねじれているのが、セキショウモと違う点です。

なお、熱帯魚水草愛好家の間では「スクリュバリスネリア」の通り名で知られています。肥料や CO₂ の添加がなくても育つので、初心者向けの水草と言われていますが、ネジレモが繁茂した水槽は見ごたえがあります。



▲ネジレモ



▲水槽で繁茂するネジレモ

・ヒロハノエビモ *Potamogeton perfoliatus*

ヒロハノエビモは湖沼に生育する、ヒルムシロ属の多年草です。南アメリカを除く全ての大陸に分布する、ワールドワイドな水草です。国内では、北日本ではよく見られますが西日本では稀です。しかも、水位の変動が小さい自然の湖沼にのみ生育し、水位の変動が大きい溜池には生育しません（松岡 online）。ヒロハノエビモは、「さすが琵琶湖」と思わせてくれる水草です。



▲ヒロハノエビモ



▲ササバモ



▲陸生形のササバモ（松岡 online）

・ササバモ *Potamogeton malaianus*

ササバモは湖沼、河川、水路などに生育するヒルムシロ属の多年草で、東アジア、インド、ニューギニア島に分布します。私たちが水生生物調査を行っている淀川左岸幹線水路にも生えています。基本的には沈水性ですが、浅いところでは浮葉を出し、水が干上がると陸生形となって生き延びる、変幻自在のたくましい水草です（松岡 online）。しかし、大阪府レッドリストでは準絶滅危惧とされています。